

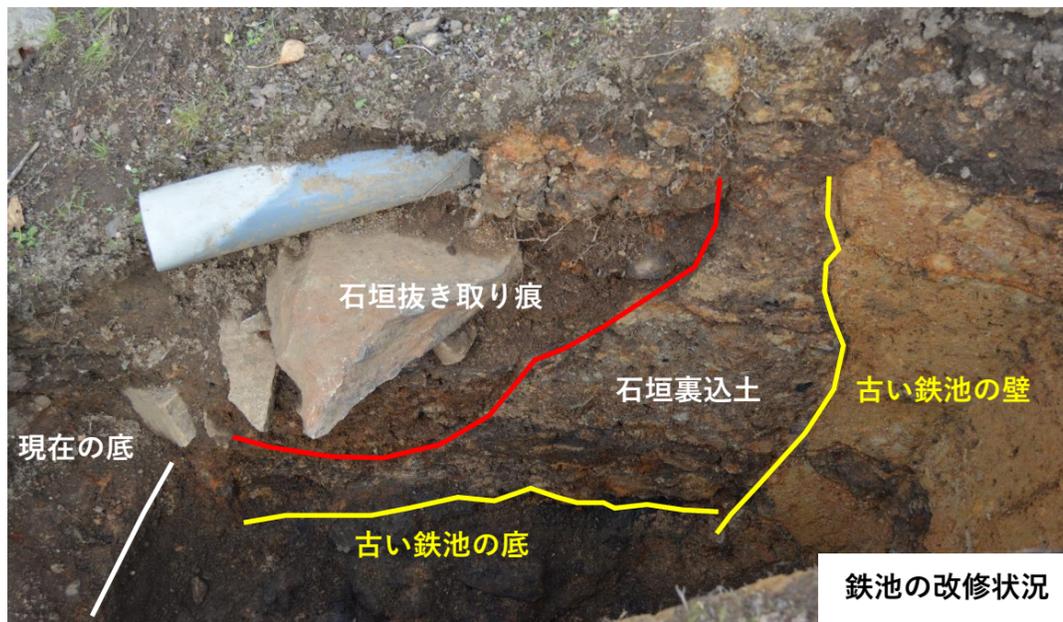
## 2. 鉄池

2023.11.23

鉄池は、製鉄炉から取り出された鉤（けら：鉄のかたまり）を水で冷やす施設です。

市道で一部が埋められていますが、本来は平面形が長方形で、長さ7m以上・幅3mの規模がありました。底は鉤を破碎する大銅場に向かって次第に高くなります。池の底は、鉤を冷やす際に鉄分が全面に沈着し、硬化しています。高殿側の石垣の下では、水を抜く際に使う排水孔も確認されました。

現在の鉄池は、石垣で囲まれていますが、元は違っていたようです。池の側面を調べたところ、現在の底よりも下にも硬化面がありました。これは、古い鉄池の底に当たり、この段階には石垣はなかったのです。鉄池は、改修を受けながら使われました。



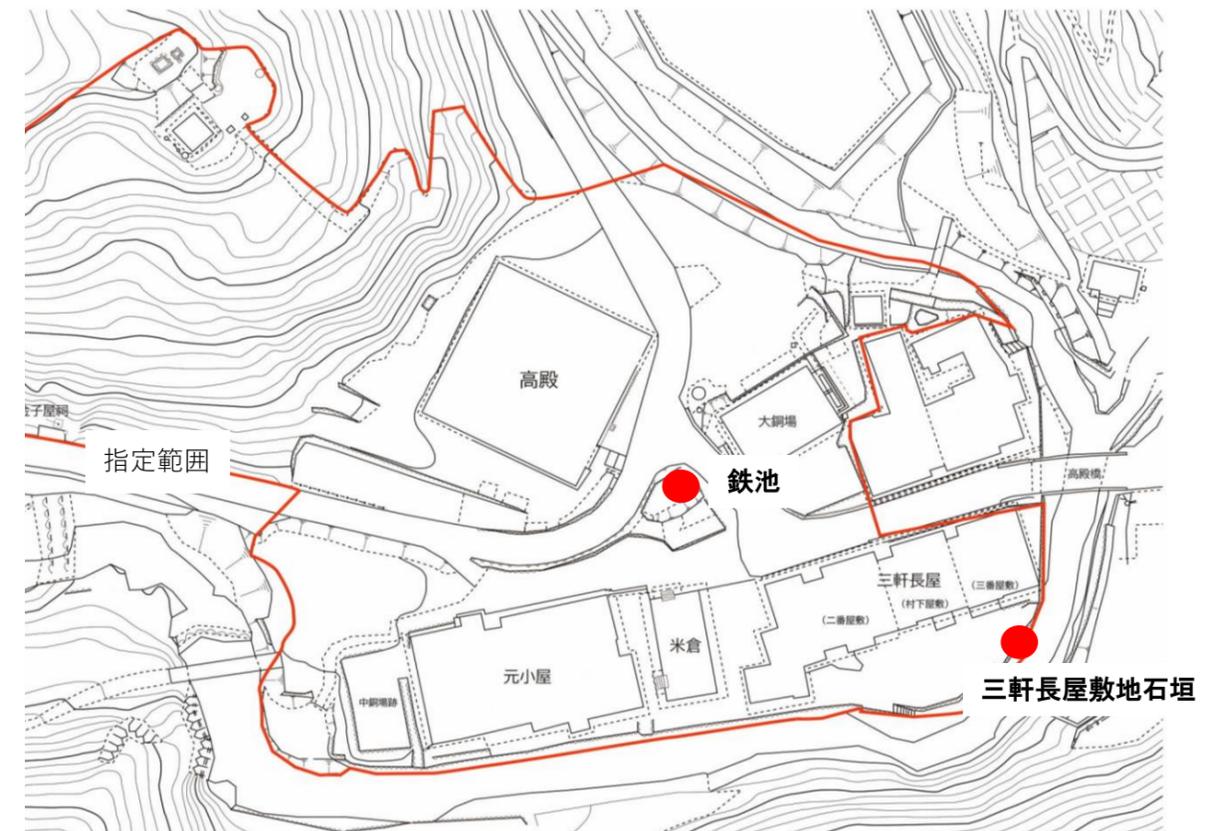
## 菅谷たたら山内発掘調査現地説明会資料

雲南市教育委員会

菅谷たたらは、出雲屈指の鉄師田部家により、寛政4年（1792）から大正12年（1923）まで操業されました。第2次世界大戦時には、出雲製鋼株式会社が昭和14年（1939）から3年間、復活操業をしています。

菅谷たたら山内には、江戸時代終わり頃に建てられた高殿や元小屋が現存します。たたら製鉄が栄えた当時の様子を知ることができることから、国重要有形民俗文化財に指定されています。

雲南市教育委員会では、菅谷たたら山内のうち、三軒長屋の敷地石垣と、鉄池（かないけ）の発掘調査を行いました。調査の結果、現在の石垣・鉄池はそれぞれ改修を受けたものであることが明らかになりました。



菅谷たたら山内の発掘調査地点

# 1. 三軒長屋敷地の石垣

## 【三軒長屋の概要】

三軒長屋は、幕末から明治時代初期に建てられました。東から順に二番屋敷、村下屋敷、三番屋敷がつながる建物です。二番屋敷には田部家事務方の二番手代、村下屋敷はたたら製鉄の技師長であった村下（むらげ）、三番屋敷は三番手代住んでいました。

二番屋敷の西側にある向座敷は、2階建てで、漢詩の書かれた建具などが使われています。高殿の製鉄作業がよく見えるところに位置していることから、明治時代、菅谷たたらを訪れた客人の対応に使われていたようです。



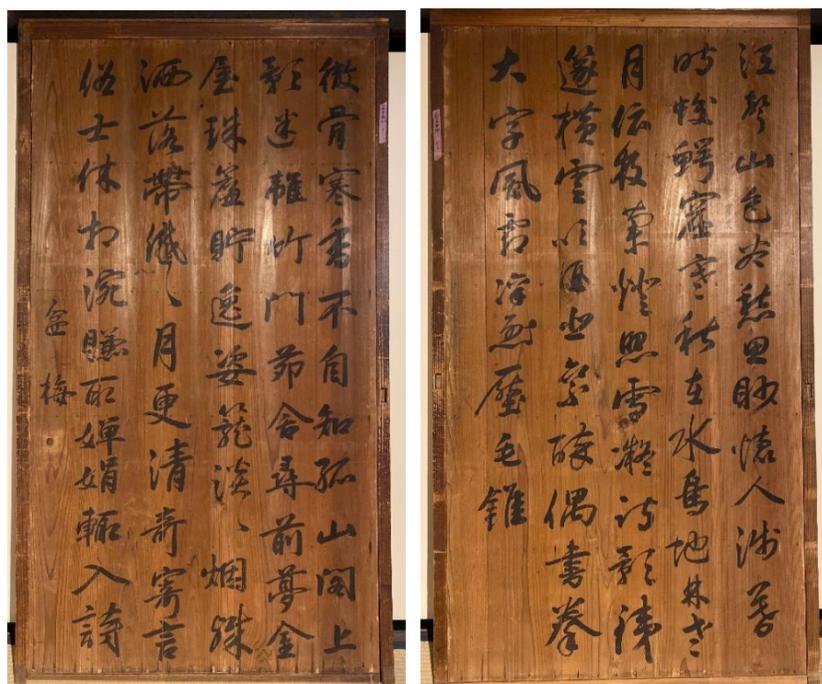
## 【発掘調査の概要】

三軒長屋は、菅谷川沿いに位置することから、敷地の周囲に石垣が築かれています。この石垣の一部が水害によって崩落したことから、修理工事を行う前に、石垣の構造を確認するため発掘調査を行いました。

石垣は、地盤が軟弱な川辺に築かれているため、胴木（どうぎ）と呼ばれる丸太を敷いてから、積み上げられています。崩落は、この胴木が流失した部分で起こりました。

調査を進めると、まず、現在の石垣の裏込め石が確認されました。近代の陶磁器が出土したことから、石垣は明治時代のものであることがわかります。

さらに下層を確認するため、裏込め石の一部を撤去し掘り進めたところ、古い石垣が見つかりました。現在の石垣よりも約1.3m内側にありますので、三軒長屋の敷地は川辺に石垣を構築しながら次第に広げられていったようです。



向座敷  
漢詩が書かれた建具

確認された古い石垣